

● AL ポイント認定制度に関する Q&A

Q. シラバス入力画面におけるアクティブ・ラーニングのチェックの方針はどのようなものですか？

A. 授業内で、「グループワーク」「ディスカッション・ディベート」「フィールドワーク（実験・実習、演習を含む）」「プレゼンテーション」「振り返り」「宿題」に該当すると考えられる、すべての形態にチェックを付けることになります。

Q. 授業内で、グループ・ディスカッションのように、AL の形態が重なり合って行われる場合は、どのようにチェックを付ければよいですか？

A. グループ・ディスカッションのように、AL の形態が重なり合って行われる場合は、該当する AL の形態すべてにチェックすることとなり、この事例では、「グループワーク」と「ディスカッション・ディベート」にチェックを付けることになります。

Q. 1 コマ 90 分の授業において、45 分を超えてグループ・ディスカッションを行う場合には、「グループワーク」の【多】と「ディスカッション・ディベート」の【多】の両方にチェックを付ければよいですか？

A. 授業時間の 50%超にわたって AL の形態が重なり合って行われている場合には、該当するすべての形態の【多】にチェックを付けてください。これは、【中】、【少】の場合も同様です。

Q. 宿題に授業の振り返りを目的としたレポートを提出するように学生に指示する場合などは、「振り返り」と「宿題」のどちらにチェックを付ければよいですか？

A. この場合は、「宿題」のみにチェックを付けてください。AL ポイント認定制度の「振り返り」はあくまでも授業内で行う振り返りのための各種の取組を指しています。

Q. 学期中に AL ポイントを変更することは可能ですか？

A. AL ポイントは、シラバスの授業計画において、アクティブ・ラーニングの度合を事前に明示することが趣旨です。

Q. AL ポイント認定制度のシラバス入力は毎回行うのですか？

A. AL ポイント認定制度導入の初年度にシラバス入力したアクティブ・ラーニングの項目については、次年度以降、授業計画に変更がない場合、前年度の入力内容をそのまま引用することが可能ですが、毎年度の授業計画の立案の際には、アクティブ・ラーニングのチェック項目の確認・点検をお願いします。

Q. 授業科目の分野によっては、講義中心に成らざる得ない場合がありますが、どのように考えるべきですか？

A. AL ポイント認定制度では、講義中心の授業であっても該当する AL の形態にチェックを付けることができます。例えば、授業の最後にコメントシートなどを用いる（「振り返り」）、講義の重要な点について、5分程度でも学生間で意見交換をさせる（「グループワーク」、「ディスカッション・ディベート」）などが考えられます。

Q. AL ポイントはどのようなことを示しているのですか？

A. AL ポイントは、アクティブ・ラーニングの度合を示すものです。つまり、AL ポイントの高い授業ほど AL の頻度が高いということになります。AL ポイントの高低が当該授業の質に直接的に結びつくものではありませんが、AL ポイントの明示を通して、アクティブ・ラーニングを通じた学生の主体的な学びが促進されることを趣旨としています。